

平成12年度

福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2000

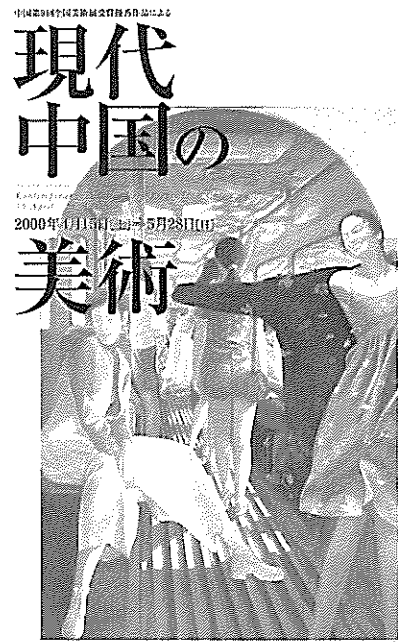
平成12年度

福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2000

目次

展示事業	
1 特別企画展	04
2 小企画展	06
3 コレクション展	08
交流事業	
1 招聘事業	10
2 受入支援事業	13
3 ボランティア事業	14
所蔵状況	
1 所蔵作品数	17
2 新所蔵作品一覧	17
3 おもな新所蔵作品	21
入館者数	24
活動記録	26
基本理念	29
活動内容	31
施設概要	32
沿革	36
名簿	38



中国2000年11月5日～5月28日(日)
2000年(11月5日～5月28日(日))
現代中国の美術展
福岡アジア美術館

現代中国の美術展

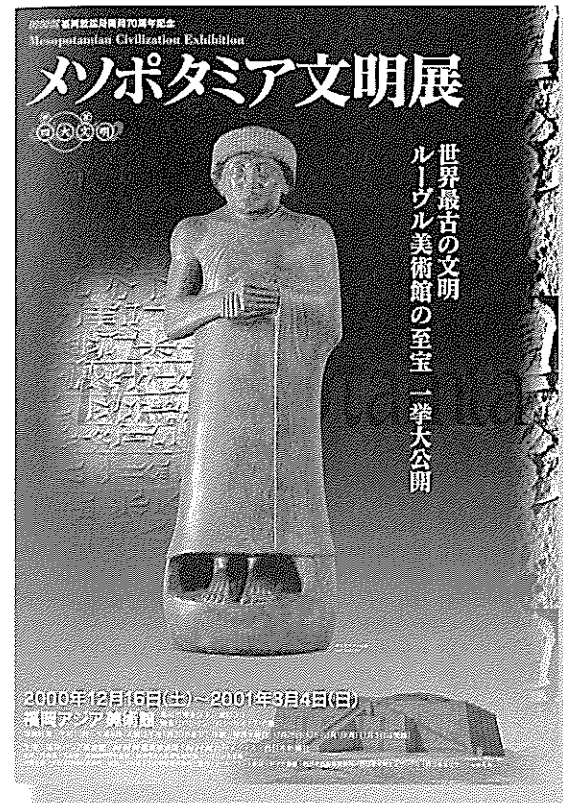
会 期 2000年4月15日(土)～5月28日(日)
場 企画ギャラリー
主 催 福岡アジア美術館、西日本新聞社
後 援 中華人民共和国駐福岡総領事館、福岡県日本中国友好協会、福岡市日本中国友好協会、財団法人福岡市文化芸術振興財団
開催日数 39日
観覧者数 10,002人
出品点数 81点

昨年末に北京中国で特約なテーマの作品を多数含んで開催された「第9回全国美術展」の受賞作品588点の中から81点(中国画、油彩画、版画、年画、連環画)を紹介。作品はいずれも現代の中国の高い技術水準を示すと同時に、中国特有のテーマの作品を多数含むユニークなものであり、90年代の政治的な安定と市場経済制度の浸透を背景に、加速度的に近代都市へと変貌していく街の姿や都市化が引き起こす問題など、多くの作品に中国社会の現状を感じ取ることができた。

関連記事

- 2000.4.12 西日本新聞(夕)、ラワンチャイクン寿子「等身大の表現—現代中国の美術展から<上> 王宏剣 「陽関三疊」、p.10
- 2000.4.13 西日本新聞(夕)、ラワンチャイクン寿子「等身大の表現—現代中国の美術展から<中> 楊金星 「デートの約束」、p.8
- 2000.4.14 西日本新聞(夕)、山木裕子「等身大の表現—現代中国の美術展から<下> 陳秉璽 翔秋 志馮 「チベットを巡遊する第10世パンチェン・ラマ」、p.10
- 2000.4.14 毎日新聞(夕) (日々)「中国の作家の変化を感じて ラワンチャイクン寿子」、p.5
- 2000.4.15 西日本新聞(夕)、「『現代中国の美術』展開幕 福岡アジア美術館」、p.8
- 2000.4.18 朝日新聞、「現代中国の美ズラリ」、p.13
- 2000.4.23 西日本新聞、(見どころ)「激変の時代に中国の芸術家は? 『新日曜美術館』」、p.21
- 2000.4.27 西日本新聞(夕)、「改革開放の感性映す『現代中国の美術展』 福岡アジア美術館来月28日まで」
- 2000.4.28 西日本新聞、(春秋)「『現代中国美術』展」、p.1
- 2000.4.28 西日本新聞、(展覧会)「『現代中国の美術』展 来月28日まで福岡市の福岡アジア美術館」、p.25
- 2000.5.3 西日本新聞、ラワンチャイクン寿子「変貌する社会、変化する表現 中国『全国美術展』の新しい人間像」、p.12
- 2000.5.15 西日本新聞(夕)、「中国第9回全国美術展受賞作品による『現代中国の美術』開催中」、p.6
- 2000.5.16 西日本新聞(夕)、「現代中国時装 美術展に寄せて① 華やかさ競う服飾雑誌」、p.8
- 2000.5.18 西日本新聞(夕)、「現代中国時装 美術展に寄せて② レベル上げて海外にも」、p.8
- 2000.5.17 西日本新聞(夕)、「現代中国時装 美術展に寄せて③ 未来のモデル目指して」、p.8
- 2000.7.14 朝日新聞(夕)、「民衆の等身大の息吹の豊かさ—『現代中国の美術』展」、p.3

ポスター B2 デザイン:株式会社FMA(福岡マドラ)
図録 A4変形 発行:財団法人日中友好会館
チラシ A4 デザイン:株式会社FMA(福岡マドラ)



～四大文明～メソポタミア文明展

会 期 2000年12月16日(土)～2001年3月4日(日)
会 場 企画ギャラリー、交流ギャラリー
主 催 福岡アジア美術館、NHK福岡放送局、NHK九州メディス、西日本新聞社
後 援 外務省、文部省、福岡県教育委員会、財団法人福岡市文化芸術振興財団、フランス大使館
特別協賛 大日本印刷株式会社
協 賛 三井海上火災保険株式会社
協 力 エールフランス航空、ヤマト運輸、西日本鉄道株式会社、西日本天神文化サークル、西日本文化サークル連合会
開催日数 63日
観覧者数 108,675人
出品点数 299点

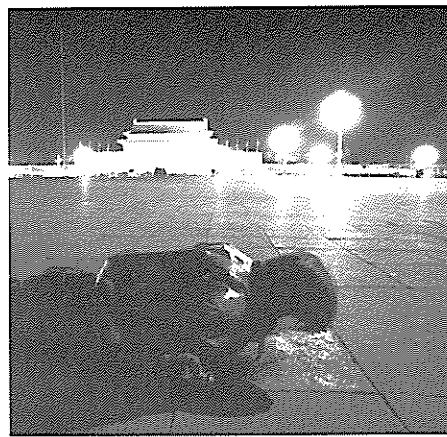
メソポタミア美術に関して、世界でも屈指の収集を誇るルーヴル美術館の作品を紹介し、メソポタミア文明の全貌に迫った。

関連記事

- 2000.12.1 西日本新聞、(出番)「世界四大文明 メソポタミア文明展 梶原由貴さん」、p.29
- 2000.12.7 西日本新聞、「～世界四大文明～メソポタミア文明展」
- 2000.12.16 西日本新聞(夕)、「メソポタミア文明展が開幕 福岡アジア美術館」、p.8
- 2000.12.28 西日本新聞(夕)、「(展覧会から)メソポタミア文明展 ルーヴル美術館の299点」、p.2
- 2001.1.5 西日本スポーツ、「メソポタミア文明展」
- 2001.1.11 毎日新聞、「最古文明遺物で紹介 メソポタミア展 福岡アジア美術館」、p.16
- 2001.1.20 朝日新聞(夕)、「文明の十字路、豊かな出土品 福岡でメソポタミア文明展 レプリカのハンムラビ法典も」、p.2
- 2001.1.25 西日本新聞(夕)、「ルーヴルの至宝一挙展示 日本初公開『メソポタミア文明展』」、p.4
- 2001.1.28 西日本新聞、「時代に磨かれ命今に メソポタミア文明展」、p.18
- 2001.2.2 西日本スポーツ、「日本で初めて一挙公開メソポタミア文明展 来月4日まで福岡アジア美術館」
- 2001.2.6 西日本新聞(夕)、「河に挟まれて咲くメソポタミア文明展①」
- 2001.2.7 西日本新聞(夕)、「河に挟まれて咲くメソポタミア文明展②」
- 2001.2.8 西日本新聞(夕)、「河に挟まれて咲くメソポタミア文明展③ 文明の継承 民族出入りで新陳代謝」、p.8
- 2001.2.9 西日本新聞(夕)、「河に挟まれて咲くメソポタミア文明展④ 文明の滅亡 都市民都市神の限界」、p.10
- 2001.2.9 毎日新聞(夕)、「(憂楽帳)西川光昭「ハンムラビ法典」、p.9
- 2001.2.10 西日本新聞、「メソポタミア文明展 入場者が5万人突破」、p.29
- 2001.2.15 西日本新聞、「『メソポタミア文明展』 厳選299点を一挙公開 来月4日まで福岡アジア美術館」、p.21
- 2001.2.21 西日本新聞(夕)、「(四季)『メソポタミア展』」

ポスター B2 制作:NHK九州メディス
図録 A4変形 発行:NHK、NHKプロモーション
チラシ A4 制作:NHK九州メディス

90年代中国前衛美術家資料展



平成12年8月5日(土)～8月20日(日)
 2000年8月5日(土)～8月20日(日)
 会場: 交流ギャラリー
 開催日数: 14日間
 観覧者数: 1,202人

90年代中国前衛美術家資料展

会 期 2000年8月5日(土)～8月20日(日)
 会 場 交流ギャラリー
 開催日数 14日間
 観覧者数 1,202人

平成12年度招聘研究者フォン・ボイ(馮博一・中国)がその滞在研究の成果として企画。止まるところを知らぬ勢いで躍進する中国の前衛美術界でも最も活発な動きがあった90年代に焦点を当て、現状と様々な問題点、そして21世紀を目前に控え中国の美術、美術家たちはどう変わっていくのか、今後の展望などについて問いかけた。

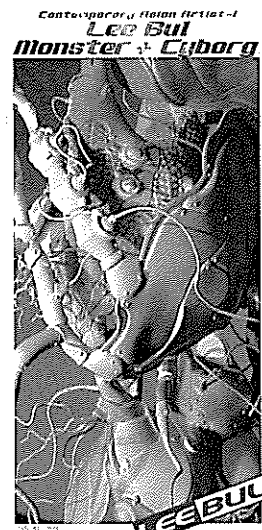
関連記事

2000.7.28 「中国美術の"前衛" 82人 福岡アジア美術館で企画展 来月5日から写真やビデオで紹介」、p.18

関連事業

□シンポジウム 8月6日(日)13:30～17:00
 会場:あじびホール
 パネリスト:馮博一(中国)、華天雪(中国)、黄銳(中国)、牧陽一(日本)

ポスター B2 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所
 チラシ A4 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所



平成12年8月26日(土)～10月17日(火)
 2000年8月26日(土)～10月17日(火)
 会場: 交流ギャラリー
 開催日数: 46日間
 観覧者数: 3,692人

現代アジアの作家 I イー・ブル展

会 期 2000年8月26日(土)～10月17日(火)
 会 場 交流ギャラリー
 開催日数 46日間
 観覧者数 3,692人

若手・中堅のアジア人作家を個展形式で紹介するシリーズ展。その第1回は、いま欧米各地から最も高い注目を集めるアジア人作家の一人である韓国のイー・ブル(李暻1964～)をとりあげた。人体の形態が生物や機械と一体化した大作「モンスター」シリーズを中心に、「サイボーグ」シリーズからの作品及び関連資料を紹介。

関連記事

2000.9.9 朝日新聞(夕)、木方幹人「明確な複数の視点 福岡アジア美術館「イー・ブル展」」

2000.10 季刊わ、(福岡市文化芸術振興財団)「モンスター、かく語りき。」、pp.14-15

2000.9.25 朝日新聞、「アートの瞬間 アニメから抜け出した彫刻 「イー・ブル」展」、p.7

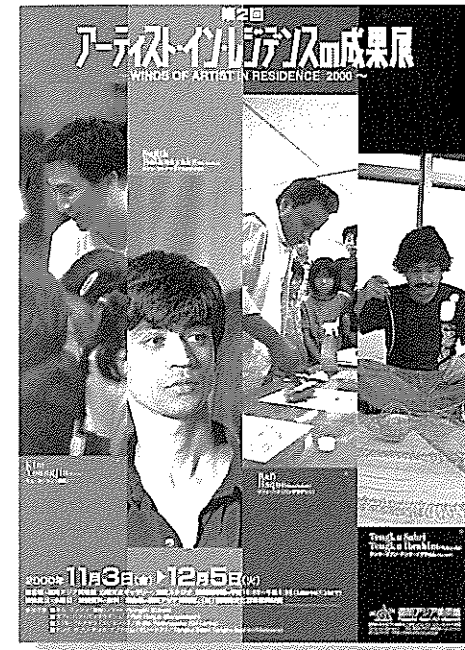
2000.10.14 岐阜新聞、長谷川祐子「見聞録 新しい人間像を提案 イー・ブル展」、p.5

2000.12.14 朝日新聞(夕)、「私の5点(中村英樹) 回顧2000 美術」、p.6

2001.4.25 展評、No.007、天野一夫「イー・ブル 見る欲望に抗して」、p.99

関連事業 □イー・ブル ギャラリートーク
 8月26日(土)9:45～
 会場:交流ギャラリー
 □作家講演会 8月26日(土)14:00～16:00
 会場:あじびホール

ポスター B2 デザイン:平井直樹
 図録 A4変形 デザイン:平井直樹



第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展

会 期 2000年11月3日(金)～12月5日(火)
 会 場 交流ギャラリー、交流スタジオ
 主催 福岡アジア美術館、財団法人福岡市文化芸術振興財団
 開催日数 28日間
 観覧者数 2,672人

平成12年度招聘アーティスト4名が、滞在中に制作した作品などを展示、発表。キム・ヨンジン(韓国)は、福岡の女性たちを撮影したビデオインスタレーションを制作、ラフィ・ハク(バングラデシュ)は、反戦をテーマにしたペーパーリトグラフやエッチングの作品を制作、スジト・ラトナヤケ(スリランカ)は、絵画、彫刻、写真を組み合わせたインスタレーションを制作、テック・サブリン・テック・イブラヒム(マレーシア)は、福岡で集めた木の枝や貝殻、縄、針金と自作の詩を用いて迷宮のような空間を創った。

関連記事

2000.11.4 西日本新聞、「秋 芸術・文化を堪能 アジア美術館母国の文化や歴史表現 4芸術家の成果展」、p.18

2000.11.5 読売新聞、「芸術の秋たんのう 福岡アジア美術館アジアアーティスト4人独自の世界」、p.32

2000.11.11 朝日新聞(夕)、木方幹人「美術交流の意義を示す 福岡アジア美術館「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」」、p.2

関連事業 □スジト・ラトナヤケ アーティストトーク
 11月3日(金)11:00～12:00
 会場:あじびホール

□キム・ヨンジン アーティストトーク
 11月3日(金)13:30～14:30
 会場:あじびホール

□テック・サブリン・テック・イブラヒム アーティストトーク
 11月3日(金)14:30～15:30
 会場:あじびホール

ポスター B2 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所
 チラシ A4 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所

図録 A4変形 デザイン:マツダヒロチカデザイン事務所



生活とアートII ベンガルの刺繍 カンタ展

会 期 2001年1月2日(火)～3月27日(火)
 会 場 アジアギャラリーB
 協力 バングラデシュ・シルバカラ・アカデミー
 開催日数 73日間

近代的な美術観からは「美術」と見なされてこなかったが、今もアジア各地で生きている民俗芸術や大衆芸術などをとりあげるシリーズ展。その第2回は、ベンガル地方(現バングラデシュとインド・カルカッタ)の各家庭で母から娘へと受け継がれてきた刺繍「カンタ」33点を紹介。過去から現代への社会の変遷に応じてデザインや用途が変化してきた歴史をたどるとともに、この地方を代表する民俗芸術としての地位をいかに獲得したかを見てとることができた。

関連記事

2001.2.1 日本経済新聞(夕)、(アプローチ九州文化)中山真由美「民俗芸術自由な図柄で復興 ベンガル地方のカンタ」、p.7

関連事業 □ボランティア特別研修
 2月17日(土)14:00～15:30
 会場:あじびホール
 講師:五十嵐理奈
 演題:バングラデシュ農村の暮らしと文化～ベンガルの女性とカンタ～

ポスター B2 デザイン:田嶋デザイン事務所CYAN
 チラシ A4 デザイン:田嶋デザイン事務所CYAN

図録 A4変形 デザイン:田嶋デザイン事務所CYAN

アジアの近現代美術1

会 期 2000年3月30日(木)～6月27日(火)
 会 場 アジアギャラリーA
 コレクションの中から、東アジア、東南アジア、南西アジアの近代以後の美術の歩みと現代美術の魅力を示す代表的な作品を紹介。特設コーナーは「中国現代美術の先駆者たち」と題し、1980年代以降、急激な成長と多様な展開を見せた中国の前衛的・実験的な美術の中から、先駆的な役割を果たした作家たちの作品と関連資料を展示した。

中国前衛美術の軌跡

会 期 2000年3月30日(木)～5月30日(火)
 会 場 アジアギャラリーB
 1989年、それまでの中国現代美術の成果を集約した大規模な展覧会「中国現代芸術展」と、その後形成された芸術家村「円明園」、「北京東村」の活動を、主に写真等の資料に基づき紹介。

版画の近現代

会 期 2000年6月1日(木)～7月18日(火)
 会 場 アジアギャラリーB
 1950年代のマレー半島の版画、60年代のプラバン・スリソータの版画など近代の作品のほか、蘇新平、洪浩、侯俊明など中国・東南アジア・南アジア各国の版画作品を紹介。

アジアの近現代美術2

会 期 2000年6月29日(木)～9月26日(火)
 会 場 アジアギャラリーA
 コレクションの中から、東アジア、東南アジア、南西アジアの近代以後の美術の歩みと現代美術の魅力を示す代表的な作品を紹介。特設コーナーは「韓国抽象の展開」と題し、キム・ファンギやユン・ヒョングンといった1970年代の抽象絵画を中心に1990年代のキム・スジャのインスタレーションまでを紹介。

インドのフォーク・アート

会 期 2000年7月20日(木)～9月12日(火)
 会 場 アジアギャラリーB
 タントラ、カーリーガート絵画、ミティラー画、フルリー画など、今もインド各地の生活に根ざして制作され続けるフォーク・アートを紹介。

写真とアート

会 期 2000年9月14日(木)～11月7日(火)
 会 場 アジアギャラリーB
 写真を用いたアジアの現代美術を版画・カラー・ジュ・パフォーマンス・CGなどにわけて紹介。ワン・ジンソン(中国)、ハン・ティ・ファム(ベトナム系アメリカ)、ワン・ジュンジェ(台湾)などをとりあげた。

アジアの近現代美術3

会 期 2000年9月28日(木)～12月25日(火)
 会 場 アジアギャラリーA
 コレクションの中から、東アジア、東南アジア、南西アジアの近代以後の美術の歩みと現代美術の魅力を示す代表的な作品を紹介。特設コーナーは「写真の魅惑」と題し、チューシン・ステリアディカラ(インドネシア)、ワン・ホンジェン(中国)などの写真と見まがうばかりの迫真的な絵画を紹介。

中国・ベトナムの宣伝画

会 期 2000年11月9日(木)～12月25日(月)
 会 場 アジアギャラリーB
 中国の文化大革命時期のポスターや、ベトナム戦争中に作成されたポスターの原画を中心に紹介。社会主義の道を歩む二つの国のポスターの共通点と相違点を探った。

アジアの近現代美術4

会 期 2001年1月2日(木)～4月3日(火)
 会 場 アジアギャラリーA
 コレクションの中から、東アジア、東南アジア、南西アジアの近代以後の美術の歩みと現代美術の魅力を示す代表的な作品を紹介。特設コーナーは「南アジアの現代美術」と題し、インド、パキスタンのインスタレーション作品を中心に、南アジアの現代美術を紹介。「ハート・マハリ」やジャガナス・バンダ(インド)の作品などを展示した。

交流事業

アジア各国で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を一定期間招聘し様々な交流事業をおこない、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助としている。また、人的な交流を深めることでアジアの美術の活性化にも繋げる。

本年度は、4人の美術作家と2人の研究者をそれぞれ3カ月間招聘した。

美術作家招聘事業



ラフィ・ハク
Rafi Haque
(バングラデシュ)

1965年、バングラデシュ、クシティアに生まれる。1991年、ダッカ大学美術学校大学院終了。「第9回バングラデシュ・ビエンナーレ」(バングラデシュ・シルパカラ・アカデミー、ダッカ、1999)をはじめ、多くの国際展に参加。1998年、外務省南アジア青年招聘プログラムで広島、京都、東京を訪問。バングラデシュ独立戦争や広島・長崎の原爆をテーマにした版画を制作する。

□滞在期間

2000年5月8日～8月8日

九州産業大学の版画工房に通い、教官や学生たちの協力を得て、反戦をテーマにしたペーパーリトグラフとエッチングの作品を10数点完成させた。また、子供を対象にした版画教室を開催し、「アジアフォーカス福岡映画祭2000」のポスターを地元のデザイナーと共同制作するなど、市民との交流もあった。

□おもな活動

- 5.26 九州産業大学で版画の制作をはじめ。
- 7.22,23 アジア親子塾「ラフィさんのペーパー・リトグラフ・ワークショップ」を開催。
- 8.5 交流スタジオで内覧会を開催。ギャラリートークをおこなう。



キム・ヨンジン
Kim Youngjin
(韓国)

1961年、韓国、釜山に生まれる。1992年、弘益大学大学院彫刻科終了。1994-95年、ニューヨークに滞在し、PS-1国際ショナル・スタジオ・プログラムに参加。1995年、「アジア現代作家シリーズⅩーキム・ヨンジン展」(福岡市美術館)を開催。「第3回アジア太平洋トリエンナーレ」(クイーンズランド美術館、オーストラリア)をはじめ、多くの国際展で活躍している。

□滞在期間

2000年5月8日～8月8日

2000年11月1日～11月8日

福岡に住んでいる世代の異なる女性229人を撮影してビデオインスタレーション「ブランコ」を滞在制作した。アジア美術館1階ロビーに設置しているインフォメーションテレビの映像ソフトの制作でも、地元の人たちに出演してもらい、刺繍をしているさまざまな手をビデオ撮影した。さらに、小学校に向いてワークショップをおこなった。水滴を拡大投影させたりして、子どもたちに新しいアートの発見を示した。滞在中の活動は、多くの人たちを巻き込んだものとなった。

□おもな活動

- 5.9 滞在制作作品「ブランコ」のビデオ撮影を開始。
- 7.13 西高宮小学校でワークショップをおこなう。
- 8.2 1階インフォメーションテレビの映像ソフト制作のため、NHK福岡放送局で撮影する。
- 11.3 「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」を開催。アーティスト・トークをおこなう。

美術作家招聘事業



スジト・ラトナヤケ
Sujith Rathnayake
(スリランカ)

1971年、スリランカ、ランナに生まれる。ケラニヤ大学美術学部にて在学し、美術と彫刻を学ぶ。「新しい方向」(マウント・キャッスル・ギャラリー、スリランカ、1998)、「若手現代作家展」(スリランカ国立美術館、1999)、「第9回バングラデシュ・ビエンナーレ」(バングラデシュ・シルパカラ・アカデミー、ダッカ、1999)などに出品。

□滞在期間

2000年8月7日～11月7日

インスタレーション「『傷』売りたい中」を3カ月かけて完成させた。消費社会の中で生きる人々の苦悩を絵画、写真、オブジェなどで構成、展示会場には救急車のサイレンの音や映画音楽などを編集して作った音が流れ、空間をうまく使った作品となった。キャンバス張りや画像出力、そして設置作業まで、多くのボランティア・スタッフの協力があったり、いくつかのワークショップに関わったり、自国では経験したことのない様々な活動をおこなった。

□おもな活動

- 10.18 「第5回大分アジア彫刻展」でワークショップを開催。
- 10.26 「第44回福岡県中学校美術教育研究大会」公開授業に参加。
- 11.3 「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」を開催。アーティスト・トークをおこなう。



テング・サブリー・テング・イブラヒム
Tengku Sabri Tengku Ibrahim
(マレーシア)

1961年、マレーシア、トレンガヌに生まれる。1986年、マラ工科大学美術学部卒業。木彫を学ぶ。1999年、デモンフォート大学(イギリス)美術・教育修士課程修了。1997年、カッセル(ドイツ)でインスタレーション・プロジェクト「アイネンザイテ」に参加するなど多くの国際展に参加。

□滞在期間

2000年8月22日～11月11日

インスタレーション「内面との出会い(迷宮への再訪)」を制作。交流スタジオの一角を展示スペースにして、針金を使ってオブジェを制作した後、床、天井、壁一面に麻紐を格子状に張り巡らせ、白いリボンを付けていった。その迷宮的な不思議な空間は、見る者を圧倒した。また、大分で中学生たちとアースワークを制作。黙々と制作を続ける真摯な態度には好感がもたれた。

□おもな活動

- 10.18 「第5回大分アジア彫刻展」でワークショップを開催。
- 10.26 「第44回福岡県中学校美術教育研究大会」公開授業に参加。
- 11.3 「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」を開催。アーティスト・トークをおこなう。

研究者・学芸員等招聘事業



フォン・ボイ (馮博一)
Feng Boyi
(中国)

1960年、中国、北京に生まれる。1984年、北京師範大学歴史学科を卒業。1988年より中国美術家協会にて記者・編集者として活躍。また、数多くの現代美術展を企画。日本でも「第4回アジア美術展」(福岡市美術館、1994)をはじめ、いくつかの展覧会に関わる。数多くの論客を擁する中国美術界において、その現代美術に対する鋭い分析は際だっている。

□滞在期間
2000年5月16日～8月14日

日本の若い美術作家や当館が所蔵する中国の作品を調査・研究した。また、自国の現代美術を広く紹介。4回にわたる中国現代美術講座をはじめ、「90年代中国前衛美術家資料展」を開催し、中国の82人の現代美術作家を概説した。さらに「中国の前衛美術～現状と21世紀への展望」というテーマでシンポジウムを開催した。その精力的な活動には、驚嘆すべきものがあった。

□おもな活動

- 7.15 「フォン先生の中国現代美術講座1」を開催。
- 7.16 「フォン先生の中国現代美術講座2」を開催。
- 7.23 「フォン先生の中国現代美術講座3」を開催。
- 7.25 「フォン先生の中国現代美術講座4」を開催。
- 8.5 「90年代中国前衛美術家資料展」オープン。共同で企画したホア・ティエンシュエ(華天雲)とともにギャラリートークをおこなう。
- 8.6 シンポジウム「中国の前衛美術～現状と21世紀への展望」を開催。



ソンポーン・ロドボーン
Somporn Rodboon
(タイ)

1947年、タイ、バンコクに生まれる。1970年、シラパコーン大学版画科卒業。1977年、イリノイ大学教育学部美術教育研究所修士課程修了。1972-98年、シラパコーン大学美術学部助教授。タイの美術教育に携わるだけでなく、国内の展覧会や「アジア太平洋トリエンナーレ」や「福岡トリエンナーレ」などの国際展でも重要な役割を果たしている。現在、チェンマイ大学助教授。

□滞在期間
2000年9月9日～12月3日
2001年2月27日～3月11日

日本の女性アーティストを調査。福岡だけでなく、関東、関西へ出かけて、精力的な活動をおこなった。また、連続講座では自国の美術を概説した。滞在中の成果は、3月に再度福岡に来て、フォーラム「日本とタイの女性アーティスト～その感性と創造性」の中でまとめられた。

□おもな活動

- 11.4 「ソンポーン先生のタイ美術講座1」を開催。
- 11.5 「ソンポーン先生のタイ美術講座2」を開催。
- 11.11 「ソンポーン先生のタイ美術講座3」を開催。
- 11.14 東京へ調査旅行。(16日まで)
- 11.23 京都、奈良へ調査旅行。(27日まで)
- 3.2 フォーラム「日本とタイの女性アーティスト～その感性と創造性」を開催。

本館が招聘する美術作家や研究者とは別に、外部の団体や個人からの要望に応じ、その人物や活動内容が本館で受け入れるにふさわしい場合、施設や設備を提供する受入支援事業もおこなっている。

本年度は、4人の美術作家、研究者を受け入れた。



コウ・グワンハウ
Koh Nguang How
(シンガポール)

□滞在期間
2000年6月1日～6月29日
2000年8月3日～8月29日
平成11年度の招聘研究者として、6カ月間滞在した。6月に再び福岡を訪れて、1カ月間調査・研究をおこなう。さらに、8月にも1カ月間滞在した。もうすっかり福岡になじみ、本年度の招聘アーティストや研究者と対話を重ね、ネットワークづくりもおこなった。



ラーナ・デベンポート
Rhana Devenport
(オーストラリア)

□滞在期間
2000年10月4日～11月12日
クシーズランド美術館のAPT(アジア太平洋トリエンナーレ)担当課長。オーストラリア外務貿易省等が助成するオーストラリア・日本・アートネットワーク(AJAN)構想のプログラムで来日し、福岡に1カ月滞在して日本の現代美術などを調査した。「第3回アジア太平洋トリエンナーレ」(1999)や「台北ビエンナーレ」(2000)などの国際美術展についてのレクチャーもおこなった。



ダルマー・バトムンフ
Darmaa Batmunkh
(モンゴル)

□滞在期間
2000年10月16日～3月9日
外務省長期青年招聘事業で来日し、現代美術や美術館教育等の調査、研究をおこなった。また、モンゴルの馬の絵を描き、小学生を対象にしたワークショップを実施したり、3月に開催した「アジア楽市楽座」では40mの長さの紙にさまざまな馬の絵を公開制作するなど、市民との積極的な交流をおこなった。



モントリー・トエンソンバット
Montri Toemsombat
(タイ)



ジャック・シャリエ
Jacques Charrier
(フランス)

□滞在期間
2000年12月4日～5月31日
モントリーが、国際交流基金の平成12年度フェローシップ招聘事業により招聘され、ジャックとともにアジア美術館に滞在する。「生活の美点を救うための素材および製品の視点(芸術とファッション)」をテーマに研究活動をおこなった。福岡近郊の農家や伝統工芸などの調査をおこなったり、3月の「アジア楽市楽座2001」ではワークショップとパフォーマンス「失われた水牛」をおこなう。

資料や情報の整理等を行うローテーション型の活動は、従来通り円滑になされ、2年間の養成研修を経たボランティア・スタッフによるアジアギャラリーの作品解説も開始された。さらに、韓国への研修旅行やボランティア通信の発行なども精力的におこなわれ、ボラ

ンティア・スタッフ同士の交流も活発になった。しかし、積極的な活動がなされる一方で、あまり活動しないボランティア・スタッフも増えてきたため、アンケートをもとに12月に組織を再編成し、活動グループも11から8に集約し、2月から新組織をスタートさせた。

データおよび活動内容

旧組織	新組織	活動内容	人数(人)
(H13年2月現在 登録者340人)			
A ローテーション型			
① 図書資料	→ ① 図書資料	図書資料の整理、図書データの登録など	49
② 学芸資料	→ ② 学芸資料	学芸関連の資料・データの整理補助	62
③ 情報	→ ③ 情報ネット	情報コーナーの資料整理、及びホームページ等の情報の更新・管理	
④ OA	→		
⑤ 案内・解説	→ ④ 案内解説	アジアギャラリーの作品解説、及び施設案内	52
⑥ 運営補助	→ ⑤ ボランティア通信編集	ボランティア通信の編集、発行	17
	→ ⑥ ボランティア催事	ボランティアの交流会、研修旅行等の企画・実施	19
B イベント登録型			
① 制作補助	→ ⑦ 交流	滞在作家・研究者の支援(制作補助、研究補助、語学補助)、イベントの支援	197
② イベント運営	→		
③ 研究活動	→		
④ 語学	→		
⑤ 広報活動	→ ⑧ 広報	あじびニュースの発送、ポスター、チラシ等の発送など	68
			計 529

*新編成では、ローテーション、イベント登録の区別をなくした。

*新編成では、1人が複数のグループに所属して活動できるため、上記の人数は「のべ数」とした。

活動

平成12年

- 4. 1 図書資料、学芸資料、情報、OA各ボランティア活動開始。以後ローテーションを組んで随時活動をおこなう。
- 21 2泊3日の日程で光州ビエンナーレ研修旅行に出発。14名が参加。アジア美術館から後小路雅弘学芸課長と交流係の浦池昌江が同行。
- 24 運営ボランティアミーティング。
- 27, 29 案内・解説ボランティア説明会開催。4つのグループにわかれて研修をおこなうことになった。
- 28 ボランティア通信編集会議。
- 5. 9 火曜日の案内・解説ボランティア研修が始まる。(担当学芸員:ラワンチャイクン寿子)
- 11 木曜日の案内・解説ボランティア研修が始まる。(担当学芸員:黒田留児)
- 12 金曜日の案内・解説ボランティア研修が始まる。(担当学芸員:松浦 仁)
- 13 土曜日の案内・解説ボランティア研修が始まる。(担当学芸員:中尾智路)
- イベント型ボランティア説明会。新しい滞在アーティスト、研究者を紹介する。
- 22 運営ボランティアミーティング
- 6. 3 OAボランティアミーティング
- キム・ヨンジンのビデオ撮影が始まり、モデルとして協力する。
- 19 運営ボランティアミーティング。
- 7. 5 代表者ミーティング。
- 13 西高宮小学校でのキム・ヨンジンのワークショップを補助。運営ボランティアミーティング。
- 23 「ボランティア通信vol.4」発行。このころから「90年代中国前衛美術家資料展」のパネル制作をおこなう。
- 8. 2 「90年代中国前衛美術家資料展」展示作業。
- 17 運営ボランティアミーティング。
- 23 このころからスジト・ラトナヤケの制作を補助し始める。
- 26 イベント型ボランティア説明会。新しい滞在アーティストを紹介する。
- 9. 7 運営ボランティアミーティング。
- 10. 18 「第5回大分アジア彫刻展」ワークショップを補助。このころからテック・サブリン・テック・イブラヒムの制作を補助し始める。
- 11. 1, 2 「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」展示作業。
- 16 ダルマー・バトムフのワークショップを補助。
- 25 案内・解説ボランティア説明会。12月16日の「メソポタミア文明展」のオープンに合わせてアジアギャラリーの解説をすることが決まる。
- 12. 8 麻生医療福祉専門学校学生180人にアジアギャラリーを解説。
- 16 アジアギャラリーの案内・解説が本格的にスタート。
- 17, 19 ボランティア総会を開催。ボランティア再編成について協議。従来のローテーション型、イベント型という区分を廃止して、以下の8つのグループに区分けすることに。図書、学芸資料、情報・ネット、案内・解説、ボランティア通信編集、ボランティア催事、交流、広報。希望のグループを12月じゅうに交流係まで知らせる。
- 21 モントリーら滞在者に八女市を案内。

平成13年

- 1. 15 新しいIDカードを配布し始める。
- 2. 1 新しいIDカードで再スタート。
- 10 情報・ネット、広報、ボランティア催事、ボランティア通信のミーティング
- 13 学芸資料、図書ミーティング。
- 17 交流ボランティアのミーティング。「アジア楽市楽座2001」を説明。ボランティア催事ボランティアのミーティング。このころから「アジア楽市楽座2001」のコーナー「アジア・アート・フリーマーケット」「インバクであそぼう」などの準備を始める。
- 3. 3 「アジア楽市楽座2001」に参加。
- 7 ボランティア交流会。
- 24 案内・解説ボランティアミーティング。月1回ミーティングをおこなうことになった。



平成12年 光州ビエンナーレ研修



平成13年 ギャラリーの案内風景

所蔵状況

所蔵状況 1 所蔵作品数 2 新所蔵作品一覧

1 所蔵作品数

	移管	1996	1997	1998	1999	2000	合計
絵画	461	77	50	108	103	45	844
版画	73	65	31	11	7	78	265
彫刻	66	0	11	2	27	1	107
写真	0	71	22	14	30	3	140
その他	77	1	0	1	7	0	86
合計	677	214	114	136	174	127	1442

2 新所蔵作品一覧

カーリガート派 髪を梳く女性 1920年頃 絵画 油彩・画布 47×33 インド	カーリガート派 夫をたたく妻 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 40.5×27 インド	作家不詳 誘惑する女 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 48.5×35.0 インド	作家不詳 シャクンタラー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 47.8×37.5 インド
カーリガート派 イヤリングを付ける女性 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 34.5×25 インド	カーリガート派 シヴァとカーリー 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 35×25 インド	作家不詳 ウルヴァシー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 49.1×33.5 インド	作家不詳 メーナカーとシャクンタラー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 50.4×34.4 インド
カーリガート派 身支度をする女性 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 23×16.5 インド	モティラル・バル サルバサトラの供儀(蛇の生け贄の儀式) 1918-20 絵画 油彩・画布 68.5×91.4 インド	作家不詳 ヴィシュヴァーミトラとメーナカー 20c 前半 版画 オレオグラフ・布、スパンコール・紙 34.4×24.6 インド	作家不詳 サラスワティー #1 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 49.0×35.3 インド
カーリガート派 高級娼婦を抱くインド紳士 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 35.5×25 インド	作家不詳 マイソールのマハラジャ 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 48.0×35.5 インド	作家不詳 ドゥシュヤンタとシャクンタラー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 48.5×35.5 インド	作家不詳 サラスワティー #2 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 16.7×12.3 インド
カーリガート派 ベットの恋人をつれた女性 20世紀初頭 絵画 水彩・紙 34.5×25 インド	作家不詳 ハンサとダマヤンティー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 48.1×35.4 インド	作家不詳 ドゥシュヤンタとシャクンタラー(思い出の指輪) 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 42.3×32.2 インド	作家不詳 アムピカー 20c 前半 版画 オレオグラフ・紙 16.8×12.1 インド

作家不詳
ダットーレーヤ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
24.1×17.3 イン

作家不詳
アヨーディヤーのラーマ王 #2
20c 前半
版画 オレオグラフ・ラメ・紙
55.9×41.0 イン

作家不詳
クリシュナとゴビーたち #2
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
35.5×49.9 イン

作家不詳
シヴァ #2
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
43.8×34.4 イン

作家不詳
ターラーデーヴィー
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
17.1×11.9 イン

作家不詳
アヨーディヤーのラーマ王 #3
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
49.0×34.7 イン

作家不詳
クリシュナとゴビーたち #3
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
34.8×49.2 イン

作家不詳
シヴァ #3
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
27.7×33.0 イン

作家不詳
ラクシュミー
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
49.5×35.2 イン

作家不詳
アヨーディヤーのラーマ王 #4
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
71.6×50.5 イン

作家不詳
踊るクリシュナ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
34.8×49.3 イン

作家不詳
シヴァとパールヴァティーとガネーシャ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
69.4×50.1 イン

作家不詳
女神像
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.5×33.7 イン

作家不詳
アヨーディヤーのラーマ王 #5
20c 前半
版画 オレオグラフ・布・ラメ・スパンコール・ビーズ・紙
49.0×35.3 イン

作家不詳
クリシュナとブラフマー
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
32.0×48.7 イン

作家不詳
ヴィシュヌ #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・ラメ・紙
49.1×35.0 イン

作家不詳
シーターの婿選び
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
45.8×35.7 イン

作家不詳
ラーダーとクリシュナ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
45.4×35.2 イン

作家不詳
マトウラーへ向かうクリシュナ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
32.7×49.6 イン

作家不詳
ヴィシュヌ #2
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
49.2×34.8 イン

作家不詳
船の上のラーマ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
34.9×24.8 イン

作家不詳
クリシュナとヤショーダーとナンダ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.9×35.5 イン

作家不詳
クリシュナとサティヤバーマーとルクミニ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙・布・ラメ・スパンコール・ビーズ・紙
51.7×33.9 イン

作家不詳
ヴィシュヌ #3
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.6×35.0 イン

作家不詳
ダンダカの森のラーマ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
33.6×49.9 イン

作家不詳
クリシュナとカーリヤ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.3×35.7 イン

作家不詳
クリシュナとルクミニ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
16.9×11.9 イン

作家不詳
ヴィシュヌ #4
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
34.5×49.3 イン

作家不詳
ラーマ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.0×35.3 イン

作家不詳
クリシュナ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
34.7×25.0 イン

作家不詳
ガンガー女神の降下
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.9×34.6 イン

作家不詳
ドルヴァとナーラーヤナ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.9×35.1 イン

作家不詳
アヨーディヤーのラーマ王 #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・布・ラメ・スパンコール・紙
48.6×34.6 イン

作家不詳
クリシュナとゴビーたち #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
30.1×40.3 イン

作家不詳
シヴァ #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.0×35.4 イン

作家不詳
ドルヴァとナーラーヤナとラクシュミ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.0×35.3 イン

作家不詳
聖なる子 #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・布・ラメ・スパンコール・紙
49.3×35.2 イン

シャイル・チョイヤル
森の中で
1989
絵画 油彩・画布
112.0×149.4 イン

アナバム・スッド
捧げ物
1989
版画 エッチング、アクアチント・紙
49.4×65.6 イン

アナバム・スッド
沈黙の瞬間
1988
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
49.3×66.3 イン

作家不詳
聖なる子 #2
20c 前半
版画 オレオグラフ・布・ラメ・スパンコール・紙
50.5×35.8 イン

T. ヴァイクントム
テランガナの女
1990
絵画 アクリル・紙
129.0×112.5 イン

アナバム・スッド
私の後光に触れるな
1990
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ、シコロ、他紙
89.9×60.2 イン

アブドゥル・レーマン・チュクタイ
消えた炎
1920年代
絵画 水彩・紙
61×41 パキスタン

作家不詳
カールツィケーヤ
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
48.5×34.9 イン

アルバナ・カール
体は衣に過ぎず
1993
絵画 油彩・画布 (3点組)
178.1×456.6 イン

アナバム・スッド
詰め込まれた方々
1990
版画 カラーエッチング、アクアチント・紙
44.8×60.3 イン

ジョージ・キート
レモンのある静物
1946
絵画 油彩・画布
86.5×50 スリランカ

カッティングリ・クリシュナ・ヘバー
牛乳運びの娘
1942
絵画 油彩・画布
154.3×76.0 イン

ヴェド・ナヤル
人類—2192
1992
絵画 アクリル、木炭・画布/アルミニウム、木、チューブ
240×240×50 イン

アナバム・スッド
後部席の窓
1992
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
49.3×78.4 イン

アイヴァン・ビエリーズ
デヒワラ
1978
絵画 油彩・画布
100×75 スリランカ

F. N. スーザ
勇ましい新世界
1962
絵画 油彩・画布
170.0×134.5 イン

アトゥル・ドディヤ
ガンボージュのガッパール
1997
絵画 油彩、アクリル、大理石の粉、木炭・画布
213.5×152.5 イン

アナバム・スッド
仮面をめぐ儀式
1990
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ、他紙 (3枚組)
95.1×65.3 イン

S. スジョヨノ
蘭の花
1959
絵画 油彩・板
74.0×60.0 インドネシア

J. スワミナタン
無題
1993
絵画 油彩・画布
172.5×239.6 イン

アナバム・スッド
窓-20
1972
版画 シルクスクリーン・紙
58.8×47.4 イン

アナバム・スッド
洗濯
1994
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ、他紙
30.0×48.6 イン

アフアンディ
ワシントンのチェリーの樹
1967
絵画 油彩・画布
76.3×101.2 インドネシア

サティッシュ・グジラル
遊び友だち
1991
絵画 混合技法
122.0×121.8 イン

アナバム・スッド
博物館
1972
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
54.5×40.0 イン

アナバム・スッド
まだ時間がある
1995
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
49.0×70.5 イン

タ・ティ
女
1950
絵画 油彩・板
68.1×55.2 ベトナム

ゴギ・サロジ・バル
彗星の降下 I
1986
絵画 油彩・画布
125.0×158.5 イン

アナバム・スッド
格子
1985
版画 エッチング、アクアチント・紙
23.8×31.8 イン

アナバム・スッド
七つの段階
1996
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
99.3×48.9 イン

ホワン・ルイ (黄鋭)
故宮後宮
1981
絵画 油彩・画布
90.0×75.6 中国

マヌ・パレク
男と女
1991
絵画 アクリル・画布
122.3×183.5 イン

アナバム・スッド
吠える
1987
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
47.9×47.5 イン

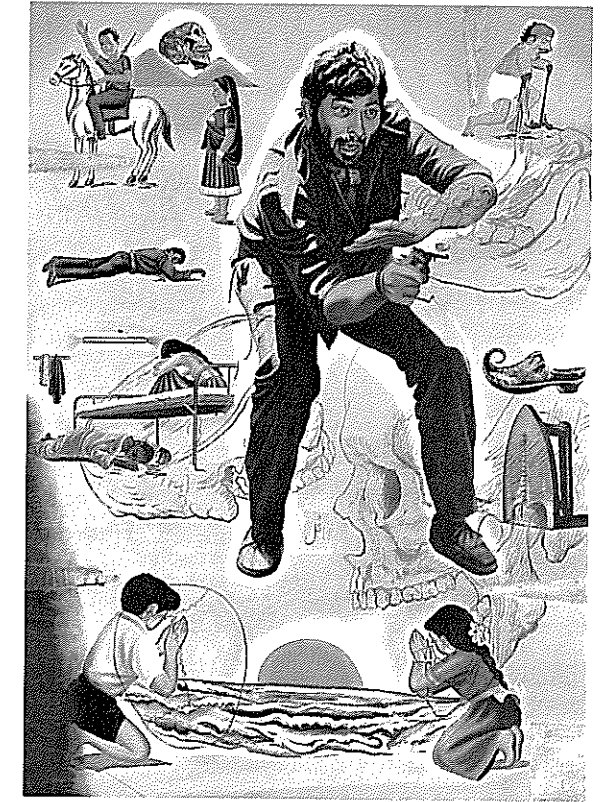
アナバム・スッド
アクア・ブラ
1999
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ・紙
81.3×49.3 イン

マ・ドゥション (馬徳昇)
月 (002)
1980
版画 木版・紙
19.4×33.0 中国

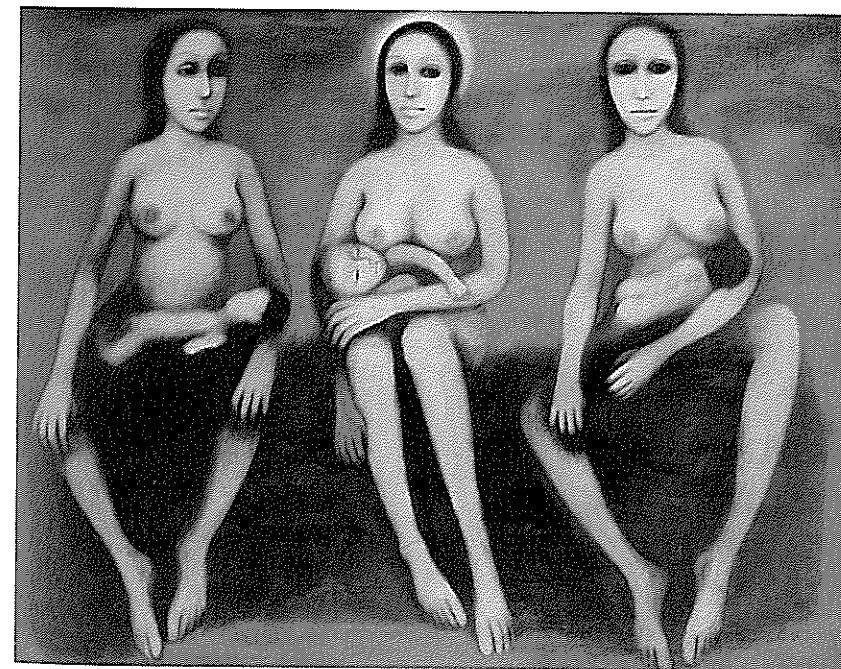
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(806) 1980 版画 木版・紙 34.6×47.0 中国	ワン・クーピン(王克平) 万々歳 1979 彫刻 木、ビニール 38.7×22.2×7.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 真理への奉仕—ガリレイ 1979 絵画 インク・紙 21.8×19 中国	リー・シュアン(李爽) 離別 1980 版画 木版・紙 16.7×22.6 中国
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(大仏と踊り子) 1980 版画 木版・紙 18.2×15.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 青春 1980 絵画 油彩・画布 84.5×84.5 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 風 1979 絵画 インク・紙 10.7×22.0 中国	リー・シュアン(李爽) 頬をなでる風 1980 版画 木版・紙 20.1×17.0 中国
マ・ドゥション(馬徳昇) 渴き 1980 版画 木版・紙 25.2×45.7 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 泉 1978 絵画 インク・紙 19.2×12.7 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 思考 1 1979 絵画 インク・紙 17.8×12.2 中国	ヤン・リー(嚴力) 労働者の休憩 1980 絵画 油彩・板 83.8×62.0 中国
マ・ドゥション(馬徳昇) 六平方米 1980 版画 木版・紙 23.0×21.1 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 解放軍生活の思い出 1978 絵画 インク・紙 14.2×9.5 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 思考 2 1979 絵画 インク・紙 12.0×17.0 中国	アイ・ウェイウェイ(艾未未) 毛沢東像 1985-86 絵画 シルクスクリーン・画布 180.2×104.8 中国
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(815) 1981 版画 木版・紙 45.1×33.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 光を求める代償 1978 絵画 インク・紙 14.3×9.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 世界に直面する 1 1980 絵画 紙 17×13.4 中国	チェン・ジエレン(陳界仁) 恍惚相 1998 写真 レーザープリント写真 225×300 台湾
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(816) 1981 版画 木版・紙 35.4×34.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 心の窓 1978 絵画 インク・紙 19.0×11.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 世界に直面する 2 1980 絵画 紙 17.1×13.1 中国	チェン・シュンチュ(陳順築) 集会・家族「リード」—福岡公寓計画 1 1999 写真 カラー写真 121.3×141.0 台湾
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(白猫黒猫) 1981 版画 木版・紙 25.7×35.3 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 二十世紀の悲しみ 1978 絵画 インク・紙 14.3×9.8 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 母親 1980 絵画 紙 11.0×19.1 中国	チェン・シュンチュ(陳順築) 集会・家族「リード」—福岡公寓計画 2 1999 写真 カラー写真 121.3×140.4 台湾
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(8110) 1981 版画 木版・紙 35.7×43.7 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 自由への憧れ 1978 絵画 インク・紙 10.8×15.9 中国	リー・シュアン(李爽) 神棚の下の赤い子供 1980 絵画 油彩・画布 100.0×90.0 中国	チョン・ソンウ(全晟雨) 青華曼陀羅(雲海)0040 1998 絵画 油彩・画布 199.8×139.8 韓国
マ・ドゥション(馬徳昇) 無題(8115) 1981 版画 木版・紙 34.5×52.0 中国	チュ・レイレイ(曲磊磊) 青春 1978 絵画 インク・紙 17.0×11.7 中国	リー・シュアン(李爽) 荒野の知己 1980 版画 木版・紙 13.9×25.1 中国	制作者 タイトル 制作年 ジャンル 素材 サイズ 制作地



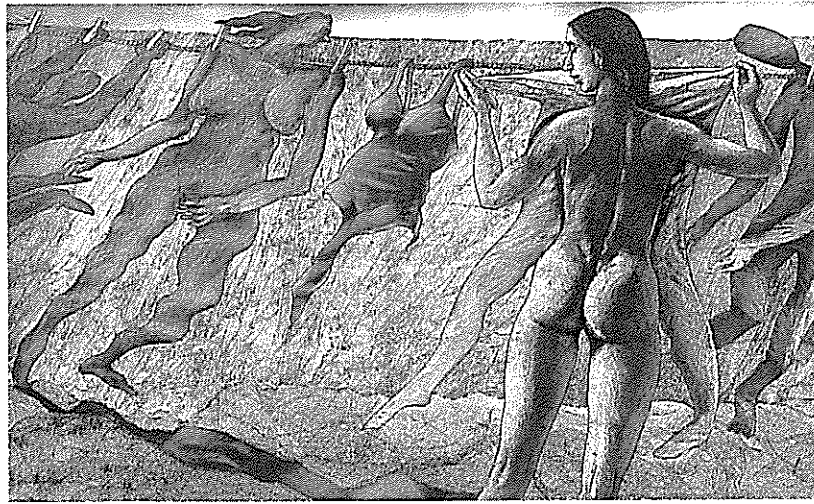
作家不詳
サラスワティー #1
20c 前半
版画 オレオグラフ・紙
49.0×35.3 インド



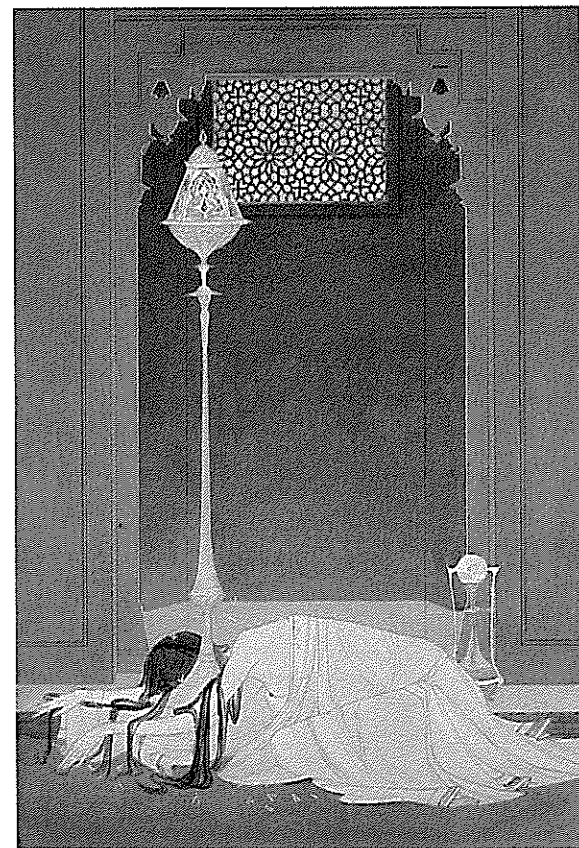
アトゥル・ドディア
ガンボーシュのガッパール
1997
絵画 油彩、アクリル、大理石の粉、木炭・画布
213.5×152.5 インド



ゴギ・サロジ・バル
曇星の降下 I
1986
絵画 油彩・画布
125.0×158.5 インド



アマナム・スッド
洗濯
1994
版画 エッチング、アクアチント、インタリオ、他・紙
30.0×48.6 インド



アブドゥル・ラーマン・チュクタイ
消えた炎
1920年代
絵画 水彩・紙
61×41 パキスタン



ジョージ・キート
レモンのある静物
1946
絵画 油彩・画布
86.5×50 スリランカ



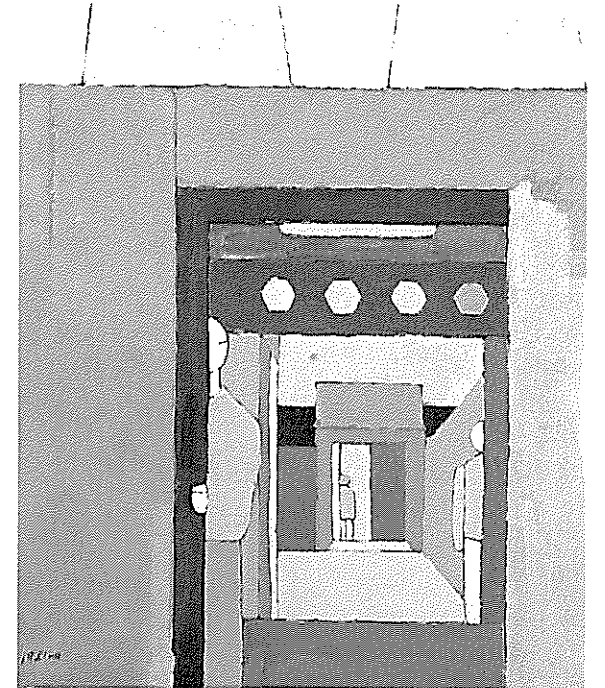
S. スジヨノ
蘭の花
1959
絵画 油彩・板
74.0×60.0 インドネシア



タ・ティ
女
1950
絵画 油彩・板
68.1×55.2 ベトナム



アフアンディ
ワシントンのチェリーの樹
1967
絵画 油彩・画布
76.3×101.2 インドネシア



ホワン・ルイ(黄銳)
故宮後宮
1981
絵画 油彩・画布
90.0×75.6 中国

入館者数

年度別入館者数

	開催日数	常設展		特別企画展		貸館展覧会等		合計	
		人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均	人数	1日平均
10年度	22			22,250	1,011			22,250	1,011
11年度	242	38,530	159	149,395	617	70,336	291	258,261	1,067
12年度	309	66,421	215	118,677	384	106,529	345	291,627	944
累計								572,138	988

月別入館者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人数	8,496	15,514	9,943	15,636	41,167	18,335	16,678	9,059	14,113	43,060	72,148	27,478	291,627

常設展・特別企画展

展覧会名	開催期間	日数	観覧者数					日平均		
			計	有料	一般	高・大	小・中		無料	
常設展		309	66,421	35,224	20,378	8,178	6,668	31,197	215	
特別企画展	現代中国の美術展	自至 4月15日 5月28日	39	10,002	7,476	6,302	1,038	136	2,526	256
	～四大文明～ メソポタミア文明展	自至 12月16日 3月4日	63	108,675	90,407	78,767	5,812	5,828	18,268	1,725
	合計		118,677	97,883	85,069	6,850	5,964	20,794		

貸館展覧会等

展覧会名	開催期間	日数	観覧者数	日平均	内容等
アーティスト・イン・レジデンスの成果展	自至 4月1日 4月25日	22	806	37	滞在作家による作品
第8回名匠展	自至 4月6日 4月11日	6	1,795	299	博多伝統手職人作品
藤又龍「映像水平線」展	自至 4月30日 5月7日	8	716	90	ビデオ作品
Pusan Art Fair 2000	自至 5月11日 5月23日	12	537	45	ビデオアート、版画、西洋画など 約50点
福岡市東区美術協会員展	自至 5月25日 5月30日	6	932	155	日本画、洋画、写真など 55点
アジア美術家連盟日本委員会展	自至 6月1日 6月6日	6	1,408	235	絵画、版画、彫刻 62点
日本・台湾写真家交流展	自至 6月1日 6月13日	12	802	67	写真
日本写真家協会創立50周年 「The Heat of Japan」展	自至 6月11日 7月2日	19	6,557	345	写真
日・韓青年作家交流会	自至 6月22日 6月27日	6	504	84	油画、インスタレーション 約50点
ぐるーぶ街10周年記念風景画展	自至 6月29日 7月4日	6	1,268	211	風景画
第5回アジア工芸展	自至 7月8日 7月17日	9	3,688	410	日本、アジアの工芸作品
日賀野兼一展	自至 7月8日 7月17日	9	1,520	169	テンペラ画 約30点
DESIGN WORKS 2000	自至 7月13日 7月18日	6	269	45	近畿大学産業デザイン学科卒業制作 約120点
韓国現代木漆工芸展	自至 7月20日 7月25日	6	380	63	木漆工芸 約55点
古代アンデスシバン王墓の奇跡 ～黄金王国モチェ文明展～	自至 7月22日 8月20日	26	40,021	1,539	王墓出土品、遺物 214点
釜山新造形展	自至 7月27日 8月1日	6	639	107	立体造形作品 約80点
中国前衛美術家資料展	自至 8月5日 8月20日	14	1,202	86	滞在研究者の研究発表
マザー・テレサ展	自至 8月25日 9月11日	16	9,336	584	写真、ビデオ、手紙など 約80点
相田みつを展	自至 9月14日 10月10日	24	18,462	769	詩 約100点
APA写真展「地球と人間・YES.NO.」	自至 10月13日 11月12日	39	4,967	127	写真 約320点
MOA美術館福岡児童作品展	自至 10月21日 10月23日	3	561	187	児童画 約70点
福岡市中学校美術作品展	自至 10月26日 10月31日	6	655	109	パネルディスカッション、作品
第2回 アーティスト・イン・レジデンスの成果展	自至 11月3日 12月5日	28	2,672	95	滞在作家による作品
高等学校芸術文化連盟写真展	自至 11月16日 11月21日	6	543	91	パネル 約300点
西日本モダンアート展	自至 11月23日 11月28日	6	1,202	200	絵画、版画、彫刻など 約200点
九州グラフィックデザインビエンナーレ2000	自至 11月30日 12月5日	6	1,049	175	グラフィックデザイン 約100点
福岡県医師会文化祭美術展	自至 11月30日 12月5日	6	615	103	絵画、写真など 約60点
博多区民文化祭作品展	自至 11月30日 12月5日	6	581	97	絵画、写真 約60点
今泉憲治展	自至 11月30日 12月10日	10	1,259	126	立体作品
ディスティモーナ	自至 3月23日 3月25日	3	1,317	439	パフォーマンス公演
日韓版画交流展	自至 3月29日 4月3日	3	266	89	日本、韓国の版画作品 約90点
貸館展覧会等 合計			106,529		

あじびホール年度別使用状況

	件数	人数
10年度	21	1,730
11年度	110	8,480
12年度	106	9,682
累計	237	19,892

あじびホール月別使用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	5	14	2	11	8	22	9	13	5	0	9	8	106
入場者数 (人)	451	1,322	380	803	464	2,595	1,158	922	346	0	580	661	9,682

あじびホール使用状況内訳

催物名	件数	入場者数
催物名		
講演会	7	510
ワークショップ	3	102
アーティスト・トーク	1	160
映画	22	2,952
ボランティア講座	10	562
演劇	26	2,241
アジア美術館大学	5	525
音楽	2	280
シンポジウム	3	246
落語	1	60
トークライブ	1	110
講習会	9	605
研修会	1	68
フォーラム	2	183
学会	1	49
その他	12	1,029
合計	106	9,682

美術館活動

平成12年

- 3.30 ~6.27 「アジアの近現代美術1」(コレクション)
 3.30 ~5.30 「中国前衛美術の軌跡」(コレクション)
 4.15 ~5.28 「現代中国の美術展」
 5.8 ~8.8 美術作家招聘ラフィ・ハク氏滞在
 美術作家招聘キム・ヨンジン氏滞在(前期)
 5.9 ~ キム、滞在制作作品「プランコ」のビデオ撮影開始。
 5.16 ~8.14 研究者招聘フォン・ボイ氏滞在
 5.26 ~ ラフィ、九州産業大学で版画の制作を始める。
 6.1 ~6.29 受入支援者コウ・グワンハウ氏滞在(前期)
 6.1 ~7.18 「版画の近現代」(コレクション)
 6.29 ~9.26 「アジアの近現代美術2」(コレクション)
 7.15 「フォン先生の中国現代美術講座1」
 7.16 「フォン先生の中国現代美術講座2」
 7.20 ~9.12 「インドのフォーク・アート」(コレクション)
 7.22 ~7.23 アジア親子塾「ラフィさんのペーパー・リトグラフ・ワークショップ」
 7.23 「フォン先生の中国現代美術講座3」
 7.29 「フォン先生の中国現代美術講座4」
 8.2 キム、1階インフォメーションテレビ映像ソフト制作。
 8.3 ~8.29 受入支援者コウ・グワンハウ氏滞在(後期)
 8.5 ラフィ、交流スタジオで内覧会、ギャラリートーク。
 8.5 ~8.20 「90年代中国前衛美術家資料展」
 8.5 フォン、ホア・テンシェ「90年代中国前衛美術家資料展」ギャラリートーク。
 8.6 シンポジウム「中国前衛美術～現状と21世紀への展望」
 8.7 ~11.7 美術作家招聘スジト・ラトナヤケ氏滞在
 8.22 ~11.11 美術作家招聘テンク・サブリ・テンク・イブラヒム氏滞在
 8.26 ~10.17 「現代アジアの作家I イー・ブル展」
 9.9 ~12.3 研究者招聘ソンボーン・ロドボーン氏滞在(前期)
 9.14 ~11.7 「写真とアート」(コレクション)
 9.28 ~12.25 「アジアの近現代美術3」(コレクション)
 10.4 ~11.12 受入支援者ラーナ・デベンポート氏滞在
 10.16~3.9 受入支援者ガルマー・バトムフ氏滞在
 10.18 スジト、テンク・サブリ「第5回大分アジア彫刻展」にてワークショップ。
 10.26 スジト、テンク・サブリ「第44回福岡県中学校美術教育研究大会」公開授業参加。
 11.1 ~11.8 美術招聘作家キム・ヨンジン氏滞在(後期)
 11.3 ~12.5 「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」
 11.3 スジト、キム、テンク・サブリ「第2回アーティスト・イン・レジデンスの成果展」アーティストトーク。
 11.4 「ソンボーン先生のタイ美術講座1」
 11.5 「ソンボーン先生のタイ美術講座2」
 11.9 ~12.25 「中国・ベトナムの宣伝画」(コレクション)
 11.11 「ソンボーン先生のタイ美術講座3」
 11.14~11.16 ソンボーン、東京へ調査旅行。
 11.23~11.27 ソンボーン、京都、奈良へ調査旅行。
 12.4 ~5.31 受入支援者モントリー・トエンソンバット氏、ジャック・シャリエ氏滞在
 12.16~3.4 「～四大文明～メソポタミア文明展」

平成13年

- 1.2 ~3.27 「生活とアートII ベンガルの刺繍カンタ展」
 1.2 ~4.3 「アジアの近現代美術4」(コレクション)
 2.27 ~3.4 美術作家ピナリー・サンピタック氏(タイ)来館
 2.27 ~3.11 研究者招聘ソンボーン・ロドボーン氏滞在(後期)
 3.2 ソンボーン、フォーラム「日本とタイの女性アーティスト～その感性と創造性」
 3.2 ~3.5 音楽家チェ・ソリ氏(韓国)来館
 3.3 「アジア楽市楽座2001」
 3.26 ~3.29 ジャハナラ・アベディン氏来館

基本理念

アジア美術の独自の創造を目指す一助とするため、アジア近現代美術を通して人々が集い、互いに理解し、創造、発信するアジア美術の交流の場とする。

また、世界的に有数の質の高いアジア近現代美術作品の集積を生かし、展示、収集のみならず、日常的なアジアとの交流、調査研究活動を積極的に展開するとともに、アジアの芸術家や研究者等と日本の芸術家、研究者、市民が互いに創り、学びあうことにより、新たな創造と相互理解を促す機会を提供する。



活動内容

1 美術交流・研究事業

アジアの作家や研究員等を福岡に招聘し、美術館でライブの創作活動を公開しながら、市民と一緒に作品を創作し、また、最新の研究成果を発信する等、多彩な美術交流事業を日常的に実施する。

(1) アジアからの滞在作家との交流事業

市民共同創作事業
実技講座
滞在制作展覧会
滞在作家講演会

(2) 調査研究事業

国内外の研究者によるアジア近現代美術の作家、作品、美術史等の研究成果の発表として展覧会や講演会の企画、開催する。

人材育成、支援

・アジアの美術作家や研究者等の支援、育成、協力(留学学芸員受入れ、派遣等)

地域交流

・アジア美術の背景にあるアジア文化について、多くの市民が気楽に参加し、アジアを身近に感じることができるイベントを開催する。

2 展示事業

(1) コレクション展示

収蔵品を展示することでアジア近現代美術の流れをたどり、また、ジャンル別やテーマ別にアジア美術作品を紹介する。

(2) 企画展示

特徴的なアジア近現代美術をシリーズで紹介する。

・近代美術シリーズ
・現代アジアの作家シリーズ
・アート拡張シリーズ(仮称)
・生活とアートシリーズ

(3) 特別企画展

アジア美術の最新動向を紹介する「福岡アジア美術トリエンナーレ」を3年毎に開催する。
アジアのみならず、幅広い分野の特別企画展を主催、共催する。

3 収集事業

(1) 収集方針

アジア美術の独自性を示す優れた作品を、近現代を中心に収集する。

(2) 収集作品の対象範囲

対象範囲
・パキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北・以西

対象とする時代範囲

・原則として、19世紀から現代までの近現代を中心とする時代。ただし、アジア近現代美術の流れを研究するうえで必要な近代以前の美術資料の収集も行う。

4 教育普及事業

(1) 美術情報コーナー

福岡アジア美術館で開催する様々な催し物の案内や収蔵品、展示作品の紹介、その他の特集コーナーを設け、アジア美術の理解を深める資料を提供する。

さらに、アジア全域にわたって美術を紹介するオリジナルの番組ビデオ「アジアの美シリーズ」を上映する。

(2) アジア美術紹介ビデオ、出版物等

アートビデオをシリーズで上映、また、収蔵品ガイドブックやニュースレター、インターネット等により教育普及を図る。

(3) あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催する。また、ミニコンサートや小演劇、上映会等、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供する。

施設概要

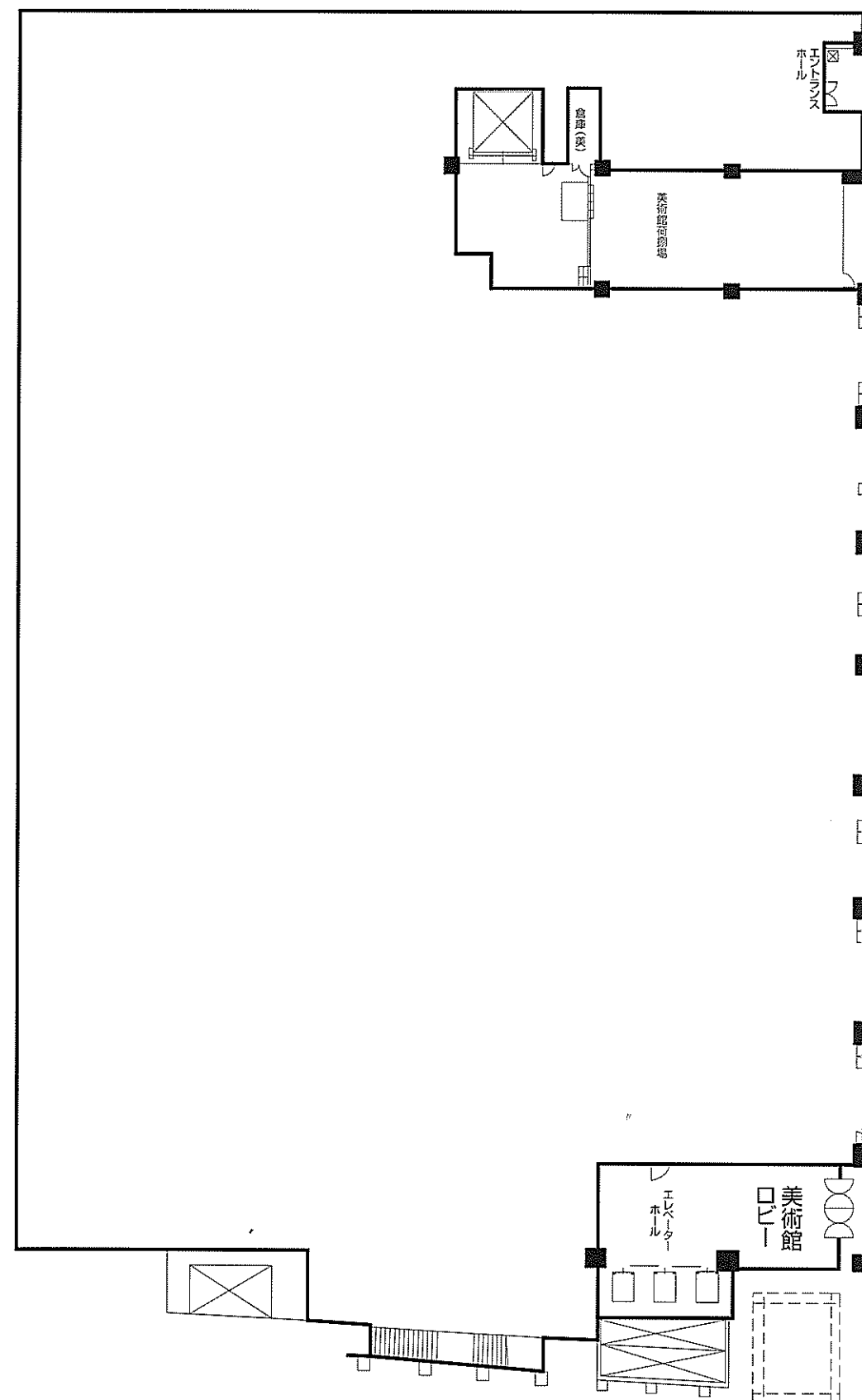
設置者 福岡市長
 設立年月日 平成11年(1999)3月6日
 名称 福岡アジア美術館
 所在 福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)
 面積 建物面積151,932.95のうち区分所有専有面積9,101.05㎡
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち
 の1階及び7階,8階
 設計者 日建設計・観光企画設計社・都市未来ふくおか・西日本技術開発・設計共同企業体
 取得額 保留床取得価額12,552,002千円

[各室面積表一覧] (単位:㎡)

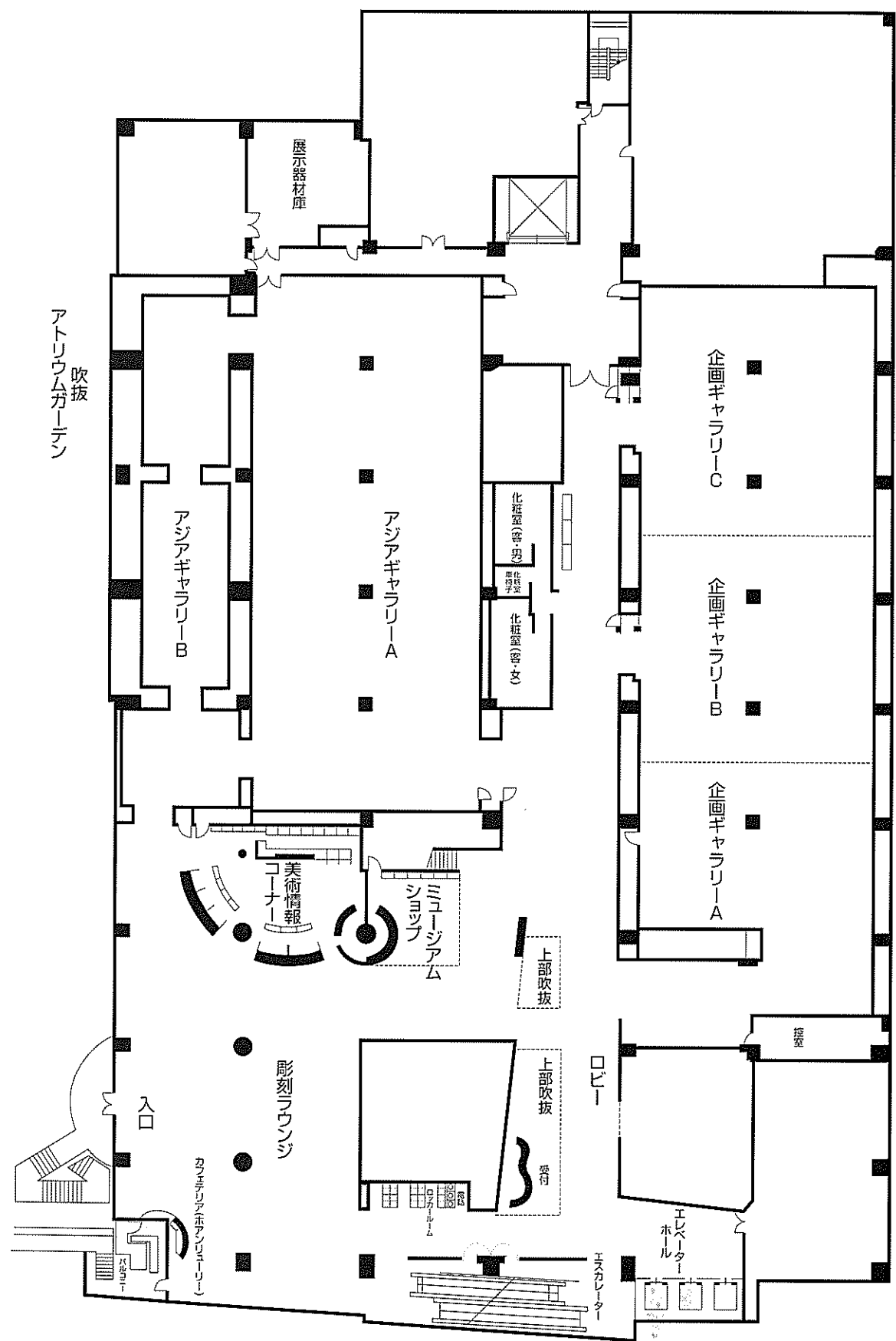
地下1階	61.69
1,2,3号EVピット	31.19
13号EVピット	30.50
1階	398.34
1,2,3号EV	47.47
13号EV	36.60
美術館ロビー	52.01
EVホール	50.97
美術館荷捌場	66.53
倉庫	11.24
搬入車路	133.52
7階	4233.33
企画ギャラリー	1004.58
物入(1)	8.77
控室	23.01
ロビー(2)	61.69
機械室(3)	131.18
チャンパー(機3)	28.43
EVホール	47.36
階段	19.43
荷捌室	110.95
通路	335.79
便所前室	12.05
便所(客・男)	22.40
便所(客・女)	31.84
便所(客・車)	5.84
ロビー(2)	214.10
展示機材庫	56.55
チャンパー	23.38
裏通路	37.40
M7F機械室	59.40
機械室(2)	92.33
アジアギャラリー	793.87
展示ケース室	316.69
ミュージアムショップ	77.60
商品倉庫	20.38
美術情報コーナー	125.52
彫刻ラウンジ	516.24
コーヒースタンド	14.39
中7階ホール	42.16
8階	4407.69
1,2,3号EV機械室	56.11
格納庫(1)	171.00
収蔵庫(1)	152.02
準備室	87.60
交流スタジオ	223.30
暗室(1)	9.90

8階	倉庫(1)	23.70
	交流ギャラリー	369.54
	倉庫	19.11
	機械室(1)	128.96
	前室(機1)	26.13
	階段	14.82
	格納庫(2)	17.94
	撮影室	87.30
	暗室(2)	6.50
	便所(男・女)	7.02
	荷捌室	167.84
	警備室	14.85
	倉庫(2)	30.80
	あじびホール	159.53
	前室(あじび)	7.35
	前室(あじび)	5.39
	調整映写室	23.50
	ロビー	360.43
	収蔵庫(2)	252.27
	前室(収蔵2)	11.10
	機械室(4)	25.32
	映像資料室	35.20
	AVステーション室	52.49
	資料カード室	40.45
	学芸図書室	119.84
	図書閲覧室	44.14
	階段室	13.42
	便所(客・男)	18.44
	便所(客・女)	23.74
	便所(客・車)	6.77
	医務室	6.73
	授乳室	14.74
	便所(職・男)	17.54
	便所(職・女)	16.41
	女子ロッカー	14.24
	男子ロッカー	11.44
	給湯室	6.85
	物品倉庫	32.00
	印刷室	13.87
	監視員控室	30.88
	ボランティア室	45.95
	ミーティングルーム	41.02
	機械室(2)	22.87
	機械室(3)	144.90
	チャンパー(機3)	20.21
	倉庫(3)	22.20
	招待者用研究室(1)	32.76
	招待者用研究室(2)	32.79
	招待者用研究室(3)	32.79
	倉庫(4)	9.88
	会議室	122.63
	学芸研究室	81.75
	学芸・管理課	245.27
	館長室	41.48
	前室(館長)	8.53
	応接室(1)	30.33
	応接室(2)	35.92
	休憩室	21.59
	脱衣室	7.70
	シャワー室	2.00
	通路	135.81
	廊下	290.79
合計		9101.05

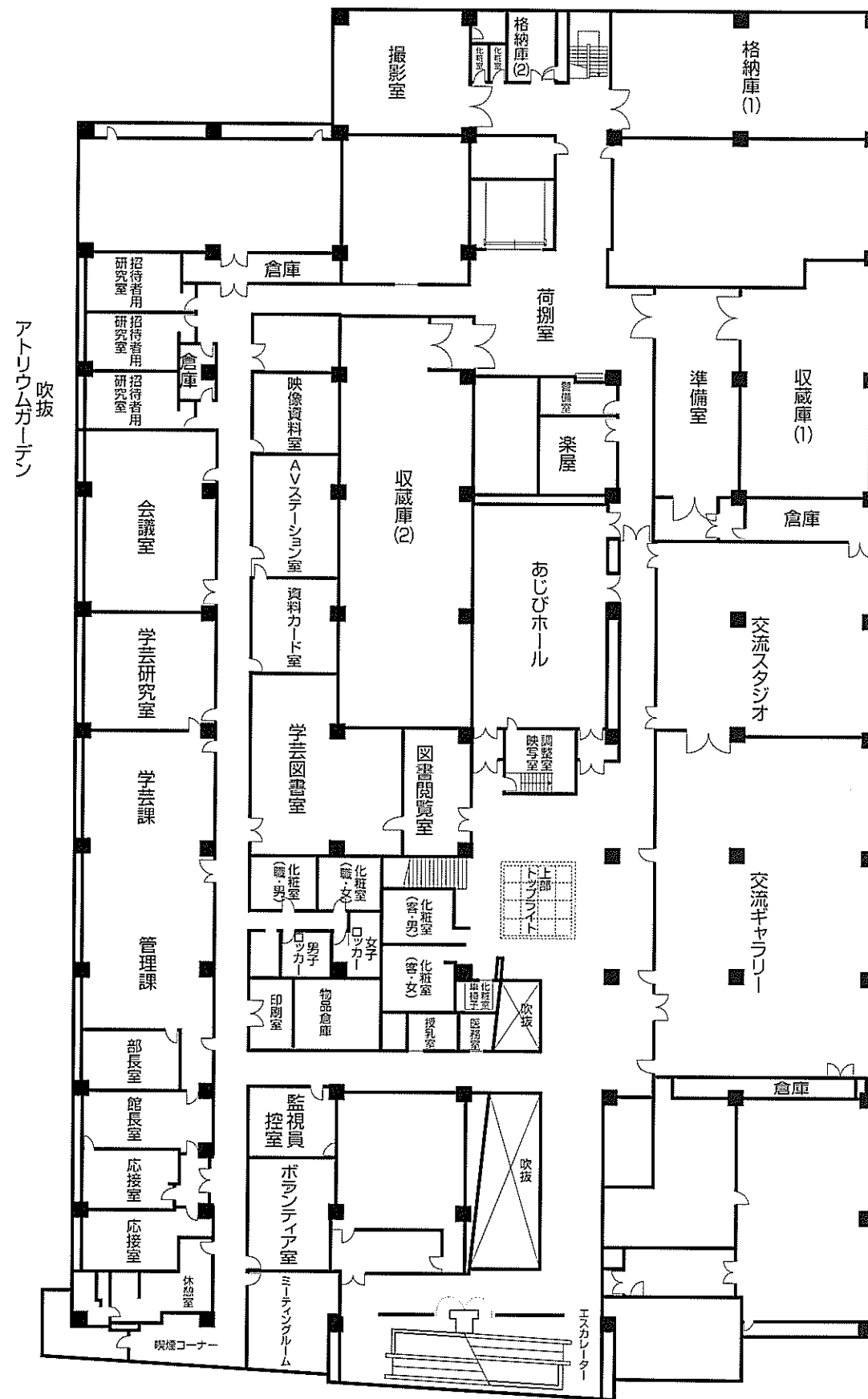
1F



7F

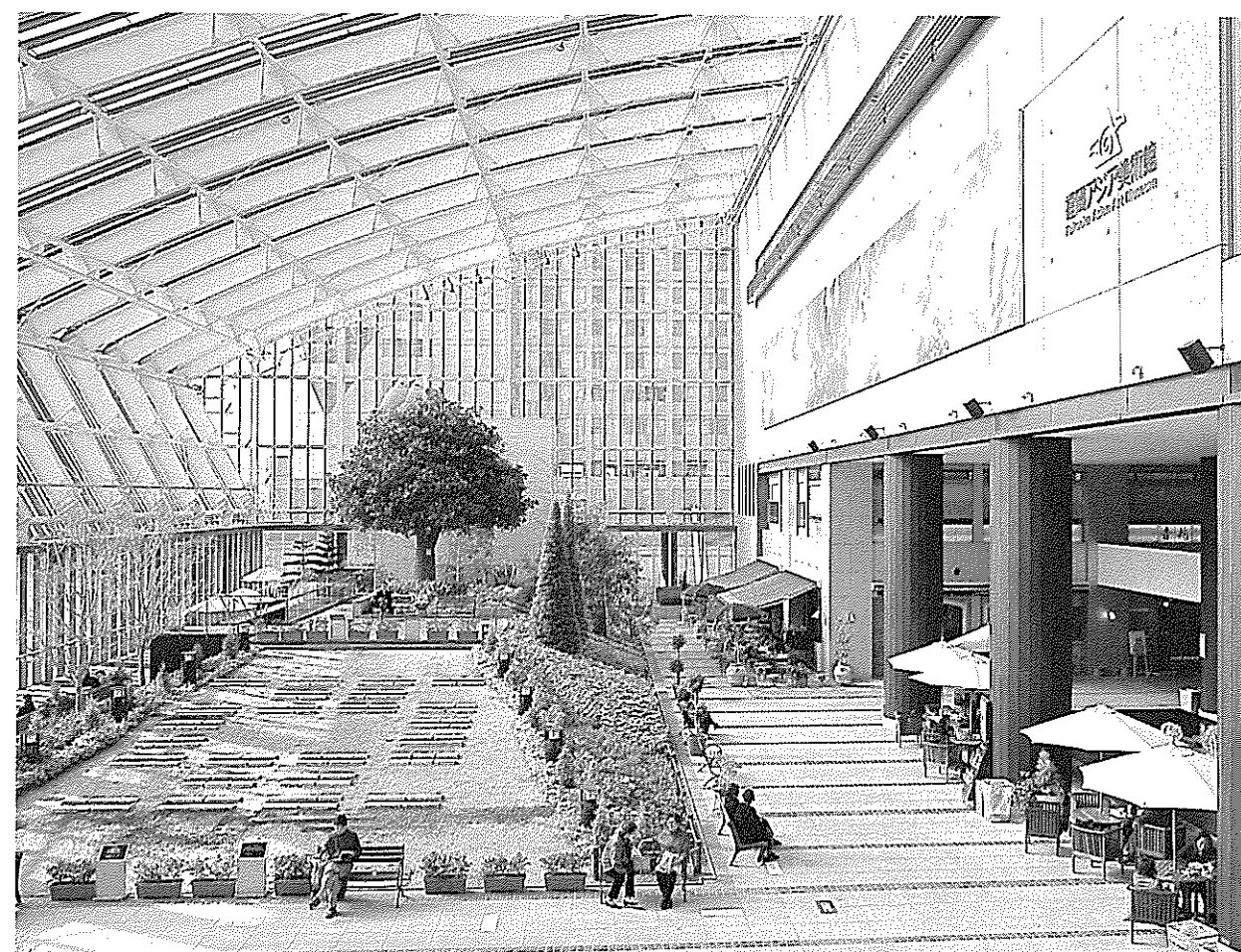


8F



沿革

平成 4年(1992) 6月	市長がアジア近代美術館の建設意向を表明
平成 5年(1993) 7月	アジア美術館整備構想委員会の設置、開催(答申までに2回開催)
平成 7年(1995) 2月	アジア美術館整備構想委員会の答申 市長が下川端市街地再開発ビルでの設置を表明
平成 7年(1995) 3月	第1回アジア美術館建設専門委員会開催(開館までに7回開催)
平成 7年(1995) 4月	平成7年度当初予算に調査費を計上、福岡市美術館内に建設担当課の設置(1課2係4人)
平成 7年(1995)11月	基本方針決定
平成 7年(1995)12月	下川端地区市街地再開発組合と保留床売買に関する覚書を締結
平成 7年(1995)12月	美術館用建物取得。一般会計補正予算、福岡市議会で原案可決
平成 8年(1996) 1月	下川端地区市街地再開発ビル起工
平成 8年(1996) 2月	第1回アジア美術館市民懇談会開催(開館までに5回開催)
平成 8年(1996) 3月	下川端地区市街地再開発組合と保留床売買契約書を締結
平成 8年(1996) 4月	建設担当課の増員(1課2係5人、参与及び担当部長の兼務発令)
平成 8年(1996) 8月	第1回アジア美術館資料収集審査会開催(開館までに4回開催)
平成 9年(1997) 3月	土地共有持分移転登記
平成 9年(1997) 4月	建設担当課の設置(2課3係8人)
平成 9年(1997) 7月	開館記念展「第1回福岡トリエンナーレ」(正式名称:第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999【第5回アジア美術展】)実行委員会設立総会
平成10年(1998) 2月	正式館名を公募。「福岡アジア美術館」に決定 (応募件数4,079点[2,775人])
平成10年(1998) 2月	開館記念展の国際協力者会議開催
平成10年(1998) 9月	福岡アジア美術館条例制定
平成10年(1998)10月	建設工事完了 竣工検査
平成10年(1998)12月	建築物引渡し
平成11年(1999) 1月	福岡アジア美術館へ組織変更 (館長以下2課3係12人【嘱託5人】体制)、美術館へ事務所移転
平成11年(1999) 2月	建築物登記
平成11年(1999) 3月1日	博多リバレイン竣工式
平成11年(1999) 3月3日	福岡アジア美術館開館記念式典
平成11年(1999) 3月6日	福岡アジア美術館開館、博多リバレイン開業
~6月6日	開館記念展「第1回福岡トリエンナーレ」開催
平成11年(1999) 5月	収蔵品を福岡市美術館から移転
平成11年(1999) 6月	収蔵品展示の開始



福岡アジア美術館企画運営会議委員

富山 秀男 プリチストン美術館館長
 陰里 鐵郎 横浜美術館館長
 中村 英樹 名古屋造形芸術大学教授
 野口 郁子 福岡市女性センターアミカス館長
 藤原 恵洋 九州芸術工科大学助教授

福岡アジア美術館美術資料収集審査会委員

乾 由明 金沢美術工芸大学学長
 中村 英樹 名古屋造形芸術大学教授
 後藤 新治 西南学院大学教授
 ソンボン・ソボン チェンマイ大学美術学部助教授(タイ)

福岡市美術館協議会委員(福岡アジア美術館を含む)

松尾 浩二 名島小学校校長
 出田 紘子 多々良中学校校長
 古賀 哲躬 福岡女子高等学校校長
 小林 俊子 福岡市青少年団体連絡会議理事
 足達千鶴子 福岡市地域婦人会常任理事
 井上 長利 福岡市老人クラブ連合会会長
 石橋 恵美子 福岡市社会教育委員
 中西 久吉 福岡市美術展運営委員
 木戸 龍一 (社)福岡県美術協会理事長
 菊竹 淳一 九州大学文学部長教授
 大西 修也 九州芸術工科大学教授
 苜木 秀 西日本新聞社取締役相談役
 西島伊三雄 福岡文化連盟理事長
 古川 智次 福岡大学教授
 濱砂 圭子 育児情報紙編集長
 吉岡 紋 作家

福岡アジア美術館職員

館 長 安永 幸一
 事業管理部長 脇山 勝之
 管理課長 梅崎 奉也
 管理係長 結城 康之
 事務吏員 安河内 宏
 事務吏員 笠 美加
 事務吏員 門島 百合
 嘱託 下迫 勇夫
 嘱託 近藤 明
 学芸課長 後小路雅弘
 収集展示係長 黒田 雷児
 学芸員 ラワンチャイクン寿子
 学芸員 中尾 智路
 交流係長 松浦 仁
 事務吏員 山本 公平
 嘱託 蒲池 昌江
 嘱託 高木 のぞみ
 嘱託 山木 裕子

発行 2001年7月2日
福岡アジア美術館
福岡市博多区下川端町3-1 博多リバーライン7-8階
URL: faam.city.fukuoka.jp
デザイン マツダヒロチカ デザイン事務所
印刷 興報社写真印刷株式会社
著作権 福岡アジア美術館
2001年(禁無断転載)



